

令和5年度 国立中央青少年交流の家 教育事業
大学生のためのボランティア活動推進事業 自主企画事業支援プロジェクト

すまいるキャンプ

令和5年11月25日(土)・26日(日) 1泊2日



○目的

□自主企画事業のねらい

法人ボランティアが学びと活動の循環をしながら成長していくための一助となることを目的とする。

□企画ボランティアが企画した事業のねらい

多くの小学校では5年生から宿泊行事を実施するため、宿泊を経験していない2～4年生を対象とした。また特性を持った子供を対象とした宿泊事業は限られており、そのような子供たちにも気軽にキャンプの体験をして欲しいという思いから、支援学級や支援学校に通学している子供も積極的に受け入れることとした。このような対象にすることで、さまざまな参加者が想定されるため、キャンプという日常とは異なる活動を通して、他者との繋がりや気持ちを共有するという経験をし、「協力」することの大切さを学ぶきっかけづくりを本キャンプのねらいとした。

○ねらい達成のための取組

キャンプのテーマを「絵本」とし、企画ボランティアがオリジナルで作成した絵本のストーリー（主人公のハリネズミ「サン」が各活動を仲間と協力して行くとパズルのピースが手に入りパズルを完成させていく）に沿って活動を行った。またその内容も低学年、そして特性のある児童もいるため、適度な難易度かつ協力することを大切にすものとした。

○参加者

□法人ボランティア

企画・運営 : 4名(女性4名 内訳:大学3年生3名 大学1年生1名(当日欠))

当日サポート: 8名(男性2名 女性6名 内訳:社会人3名 大学4年生1名 大学3年生1名
大学2年生1名 大学1年生2名)

□参加者(対象:小学2～4年生 支援学校や支援学級に通う児童も参加可)

小学生 31名 (男子 13名 女子 18名 内訳: 4年生 11名 3年生 11名 2年生 9名)

○本事業の仕組み

当施設で活動している法人ボランティア4名が企画ボランティアとなり、事業のねらいを設定し、そのねらいを達成するためのプログラム、2日間の事業の流れを話し合い決定した。

○当日までの流れ

5月下旬 企画ボランティア決定

7月上旬 企画ボランティアと担当職員の顔合わせ(オンラインミーティング)

以後随時 企画ボランティアと担当職員の進捗状況確認

8月下旬 機構本部、自主企画事業支援プロジェクトへ申請・採択

9月下旬 事業企画書作成及び開催要項・チラシを作成

10月8日 事前研修(ボランティア11名) 企画ボランティアによる次長へのレクチャー

10月中旬 チラシ発注・広報開始

10月25・29日 事前相談説明会(25日対面 29日オンライン 参加者5組6名)

11月上旬 参加者決定

- 11月上旬 二次案内及び落選者への「お手紙」の送付
- 11月中旬 事前準備
- 11月22日 企画ボランティアによる所長へのレクチャー
- 事業前日 集合・最終準備

※上記以外にも企画メンバー4名で打ち合わせを行いながら準備を進めた。

○事業当日の運営及び日程

企画ボランティアの他に、参加者のサポート役のボランティアも運営に携わった。応募者数が非常に多く、当初の予定より参加者を増やして事業を行ったため、サポートが手薄になることも懸念されたが、経験豊富なボランティアも多く、円滑に事業が遂行することができた。

11月25日(土)

9:45	10:00	10:20	12:00	14:00	17:00	18:15	20:00	21:30
受付開始	はじまりの会	アイスブレイク	クッキング	旗作り	夕食	ナイトプログラム	入浴	就寝

11月26日(日)

6:30	7:00	7:20	9:20	12:00	12:40	13:45
起床	朝のつどい	朝食	森の運動会	ランチタイム	お話タイム	おわりの会

○当日の様子（参加者）



アイスブレイク



クッキング
(ホットケーキ)



旗作り



ナイトプログラム
(影絵)



運動会



ありがとうタイム

○ボランティアの活動及び成果物

□事前研修



職員による講義①



職員による講義②



企画練習① ナイトプログラム



企画練習② クッキング



企画練習③ 旗染め



企画練習④ デカパン作成



企画練習⑤ アイスブレイク



事前相談説明会

□成果物及び準備物



ルール説明



しおり



絵本の主人公 「サン」(左)



パズル



クッキングレシピ



ナイトプログラム



安全に関する掲示①



安全に関する掲示②



運動会プログラム



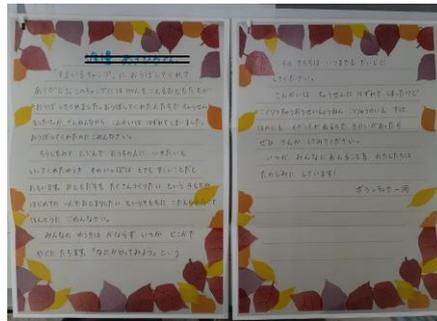
ボランティア紹介



運動会メダル



閉会式 動画上映



落選者への「お手紙」

○事業を終えて

《企画ボランティアの感想》

- 新たな挑戦や予想外の出来事もあり様々な葛藤がありましたが、参加者にとってより楽しいもの、ワクワクすることは何かを考え、満足のいくキャンプが出来るように試行錯誤を重ね、無事に開催することができて良かったです。
- 保護者の信頼を得ることが事業において重要であり、成功に繋がることを実感しました。
- 企画をする過程や子どもたちと関わる中で、私たち自身が大切なことを学べたと感じました。
- 多くのボランティアの協力があり実施することができたので、感謝しかありません。

《成果と課題》

○成果

- ・ これまでにないターゲット（小学2～4年生 支援学級や支援学校の児童も可能）を対象として計画したため、非常に多くの応募者数があった。定員を大きく上回る応募があり、家庭や子供のニーズを知ることができ、今後の教育事業への参考となった。
- ・ 参加ボランティアの構成がベテラン・中堅・若手とバランスが良く、事前研修、当日の活動及びミーティングにおけるコミュニケーションも密に行われたことで、次世代のボランティアに繋がる事業となった。

○課題

- ・ 企画ボランティアに非常に多くの負担（企画・事前準備・当日運営等）をかけることとなったが、参加者及び保護者の満足度は非常に高かった。しかし、今年度の事業が基準になると、来年度以降の企画ボランティアへのプレッシャーとなりかねない。引き継ぐべき内容を見極めながら、来年度以降の事業に活かしていきたい。
- ・ ボランティアが事業の企画・運営に必要な知識やスキルを段階的かつ継続的に身につけていけるよう、研修や経験の機会を提供し、サポートしていく必要がある。